

【普通科・事務情報科・商業科】 2年次 **必修・選択** 科目「家庭基礎」授業のシラバス

1 概要

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	単位数(コマ数)	2単位(78コマ)
科目の目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。				
教科書(出版社)	新図説家庭基礎(実教出版)		副教材(出版社)	新図説家庭基礎学習ノート(実教出版)	

2 学習の方法

(1) 予習について

家庭科は日頃の生活と密着した教科です。日頃から衣食住、福祉、保育、経済、環境問題などに興味関心をもつことが家庭科の学習に生かされます。

(2) 授業について

座学の知識を基に実習が行われます。日々の座学授業でしっかりと知識を身につける必要がありますので、分からないことはその場で質問するなど積極的な姿勢で臨んでください。配布されたプリントはファイルにまとめて自己管理を徹底しましょう。

(3) 復習について

復習しやすい環境を整えるためにもノートやプリントの書き漏れがないよう心がけ、紛失ないようにしましょう。

〈学習アドバイス〉

- 学習の基本は授業です。積極的に授業に参加しましょう。
- 実習は怪我をする恐れがあります。安全に取り組めるよう日々の授業から落ち着いて取り組んでください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	家族・子ども・高齢者・消費・経済などに対して、また、それらに関連する制度や法律等に関心を持ち、生きていくうえで知識・技術を習得して、自分の生活をデザインしようとする意欲がある。
② 思考・判断・表現	学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容をワークシート等でまとめることができる。
③ 技能	自立するために必要な調理技術、縫製技術、また家族介護のための基礎的技術などを身につけることができる。
④ 知識・理解	人が生きていくうえで必要な「生活」にかかわる基本的知識を身につけ、理解している。

(2) 評価の方法(以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料		定期考査・確認テスト 実力テスト	実習態度	作品	休業中の 課題	グループ ワーク	発言・発 表	提出物の 内容
	割合								
① 関心・意欲・態度	20%			◎	○			◎	
② 思考・判断・表現	20%						◎	○	◎
③ 技能	30%	○	技能テストを行います。		◎	◎			
④ 知識・理解	30%	◎	授業で扱った内容から出題します。			○			◎

〈担当者からのメッセージ〉

- 学習ノートやワークシートの記入漏れ・提出忘れがないように気をつけましょう。
- 常に自分の考えをもち、それを表現できるようにしましょう。
- 苦手な分野の実習にも積極的に取り組むことが大切です。

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	家庭科を学ぶにあたって	1	ガイダンス			
	第1編 人とかかわって生きる 第1章 自分らしい生き方と家族	6	1節 人生80年を見通す 2節 今の自分を見つめる 3節 青少年の生き方について考える 4節 労働について考える 5節 共に働くことを考える 6節 家族って何だろう 7節 家族に関する法律の理念と背景 8節 家族にかかわる法律 9節 現代の家族をとりまくことから	① ④ ①④ ② ④ ② ② ④ ④		
5	第2章 子どもとかかわる	12	1節 子どもを知る 2節 青年期の健康と生命の芽生え 3節 からだの発達 4節 心の発達 5節 子どもの生活習慣・健康管理・安全 6節 子どもの食生活・衣生活 7節 子どもと遊び 8節 親になることを考えよう 9節 すこやかに育つ環境 10節 子どもの権利と福祉	④ ①② ② ④ ④ ④ ①③ ① ② ②		
6	第3章 高齢者とかかわる	4	1節 高齢社会に生きる私たちの暮らし 2節 高齢者の心身の変化 3節 高齢者の生活 4節 豊かな高齢期を迎えるしくみ	④ ④ ① ④		
7	第4章 社会とかかわる	3	1節 支えあう暮らしとは 2節 私たちの社会福祉 3節 地域社会の一員としてのボランティア活動	①③ ② ④	【各単元共通】 ①人とかかわり、衣食住などの生活、経済的な観点において、自立した生活に向けて、意欲的に学習にとりかかっている。	
8	ホームプロジェクト・学校家庭クラブ	6			①人の一生、家族・家庭、子どもや高齢者の生活、それらと社会とかかわり、衣食住について関心をもち、その充実・向上をめざして意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけようとしている。	前期期末 考查
9	第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる	18	1節 私たちの食生活と健康 2節 食を楽しむ 3節 食品の栄養素とからだの成分 4節 炭水化物 5節 脂質 6節 たんぱく質 7節 ミネラル 8節 ビタミン 9節 その他の食品 10節 食品の選択と表示 11節 食品の衛生 12節 食料自給率と食品の安全性 13節 食生活と環境とかかわり 14節 必要な栄養素量 15節 献立作成 16節 調理の基本	④ ① ①③ ① ② ④ ④ ④ ④ ④ ④ ④ ② ② ② ③	②自分や家族・家庭、地域の生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のため思考を深めて、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ、判断できる。また、課題解決の学習から導き出した考えを的確に表現することができる。	
後期 10	第2章 衣生活をつくる	10	1節 人と衣服のかかわり 2節 衣服の機能 3節 衣服の素材を見よう 4節 衣服素材の性能 5節 繊維の改質・加工 6節 衣生活の計画 7節 衣服の手入れ 8節 家庭での洗濯・保管 9節 衣生活と資源・環境	③ ② ③ ② ② ④ ② ④ ②	③自分・家庭や地域社会の生活に関する課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を身につけることができる。	
11	第3章 住生活をつくる	4	1節 人と住まいのかかわり 2節 住空間の成り立ちと平面計画 3節 健康に配慮した室内環境と住まいの管理 4節 安全に配慮した室内環境 5節 これからの住まいを考える	④ ③ ② ① ② ② ④	④自分や家族・家庭、地域社会の役割を理解し、生活の充実向上に向けて必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	
12	第3編 消費者として自立する 第1章 消費行動を考える	10	1節 主体的な消費行動と契約 2節 多様化する販売方法と問題商法 3節 適切な契約のための制度・法律 4節 多様化する支払い方法 5節 消費者の権利と責任 6節 循環型社会をいかに構築するか 7節 地球温暖化にどう向き合うか	② ② ④ ④ ② ④ ④		後期期末 考查
1	第2章 経済的に自立する	4	1節 経済の中の家計 2節 日々の収入・支出を把握する 3節 長期的な経済計画を立てる	② ② ④		
		計 78				

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。